

# キャンピズ NEWS

Camp  
With  
vol.65(2018/11)

今シーズンのプロ野球も終わり、第一線で活躍していた選手たちの引退表明もあり、卓球界では福原愛さんも現役引退され、少し遡りますが音楽界では安室奈美恵さんがデビューされた9月16日に引退されました。さまざまな業界から惜しまれながらもたくさんの方が引退した今シーズン。そのすべての方が私たちに勇気と感動をくれました。キャンピズに引退はありませんが!引退を決意された方たちのように勇気と感動をお送りし続けていきたいと思えます!!

さて、今回のキャンピズ NEWS では先日開催しました 20 周年記念キャンプ、スペシャルニーズキャンプネットワーク (SNCN) 大阪大会の様をお伝えしたいと思います。そのほかに平野、芦屋のこのごろニュース、「2018 年度スノーキャンプ」「後期グループキャンプ」の募集もごさいます。

キャンプの募集詳細につきましては NEWS 内案内と別紙案内をご覧ください。

それではキャンピズ NEWS65 号スタートです!

事務局員 水井広起\*ヒロ



## スノーキャンプ

~平成最後の冬を滑走しよう!!~

日程：2018年12月25日(火)~28日(金)

場所：岐阜県高山市岩井町913-13「国立乗鞍青少年交流の家」

定員：<キャンピズクラブ>20名

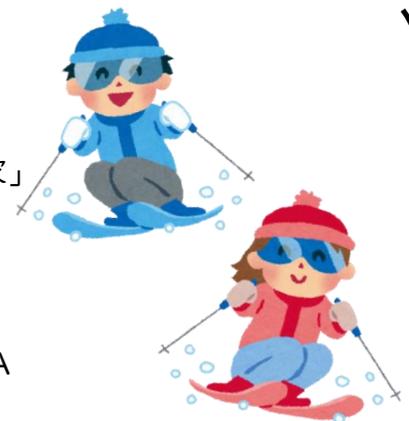
費用：75000円

担当：水流寛二

プレキャンプ日程：12月8日(土)14:30~ 場所:大阪南 YMCA

申込締切：11月21日(水)締切(必着)

※詳細は、同封の「キャンピズ・スノーキャンプ2018 参加者募集」をお読み下さい。



~もくじ~

P2~3...SNCN 大阪大会 P 6...ウイズ芦屋  
P 4...20周年記念キャンプ P 7...平野みんな食堂ネットワーク  
P 5...キャンピズだより P 8...後期グループキャンプ案内

## スペシャルニーズキャンプネットワークフォーラム 大阪大会 1日目

昨年、東京代々木のオリンピックセンターで開催されたスペシャルニーズキャンプネットワーク(SNCN)フォーラムが今年は大阪で開催されました。今回の大会は、日本福祉文化学会第29回全国大会大阪大会と共催で実施されることになり、1日目は桃山学院大学を会場に、そして2日目は場所を大阪市立信太山青少年野外活動センターに場所を移して盛大に行われました。

初日は、学会のプログラムの中の自主シンポジウムにSNCNフォーラムを位置づけ、「特別なニーズを必要とする人を取り巻くこれまでの環境と現在、そしてこれから」をテーマに、慶応義塾大学の野口和行先生のコーディネートのもとパネルディスカッションを行いました。全国的に見ても障害がある人と年間40本近くキャンプを実施している団体は稀であるということでキャンピズに白羽の矢が立ち、キャンピズの活動に継続的に当事者として参加している藤林行夫さん、お子さんをキャンプに送り出している親御さんを代表して浅野万里子さん、辻勢津子さん、そしてキャンピズの活動にスタッフとして参加している畠中稔生さんに語っていただきました。

藤林さんはキャンピズの活動に出会ったことによってスノーキャンプでのバイスキー体験やキャンピズ初の海外キャンプであるオーストラリアキャンプにおいて挑戦したジャイアントスイング等のアクティビティ体験により、前向きでアクティブな今の自分が形成されたと話されました。そして、これからの夢も語られました。その夢とは、「バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバダイビング」に挑戦することです。

続いてお話しいただいたのは、浅野さんです。息子さんは、知的障害を伴う自閉症と診断されましたが、少しでも刺激を与えたいとの思いで、たくさんの習い事をさせたそうです。しかし、中学2年生のころに自我が目覚め、すべての習い事をやめてしまうことになりました。それでも、高校卒業後通っていた作業所でキャンピズの紹介を受け、不安を抱えながらも参加させたところ、それが、今や18年間も生活の一部として定着しています。「はじめは協調性がなく、みんなと活動を共にすることが難しかった息子が少しずつ活動を共にできるようになりました。キャンプファイヤーの輪に入り一緒に楽しんでいる姿も見られるようになったという学生からの報告が親にとっては大きな喜びです」と話されました。そして、息子には「質」の高い(贅沢ではなく)生活を送ってほしいと思っているというお話が印象的でした。「24時間眠らない街での生活が当たり前になっている今の社会において、キャンプの生活は日の出とともに活動し、自然の恵みをいただき、日暮れとともに夜はゆっくり休むといった、当たり前の生活がそこにあるのです」と。考えさせられる重みのある言葉です。

辻さんの息子さんは2歳になっても言葉が出ず、いろんな医療機関を回ったもののこれといった答えが得られないまま4歳を迎え、知り合いの紹介から「ドーマン法」と出会いました。その後、小学生から高校生までYMCAのキャンプに参加していました。しかし、高校を卒業してから参加できるキャンプがなくなり、参加できるキャンプを探していたところキャンピズを知り現在に至っています。キャンピズのキャンプは息子さんには欠かせない存在となっているようです。今年も夏の10泊キャンプ、5泊キャンプすべて参加されました。来年のキャンプの日程も今から気になっているようです。

畠中さんからはスタッフの立場から話していただきました。活動に参加するようになったきっかけは大学の授業で活動しながら単位が取れるというところからのスタートだったようです。その後、学年を重ねると、役割や責任を負うようになり、さらにやりがいを感じるようになっていきました。キャンパーとの関りは「なんで？」の連続だったそうです。それを理解したいという思いが興味へとつながり、キャンパーの穏やかな表情や笑顔に触れるたびに「認められた」喜びに浸ることができたと語られました。「野外における活動は一人ではできないことだらけです。支援する側、される側という側面的なかかわりではなく、共に過ごすことのできる喜びは、すべてお互いさまであり取り繕う必要がありません。だから心地いい空間なのでしょう」と。会場からの質疑応答も活発に飛び交い、熱のこもった時間となりました。



## スペシャルニーズキャンプネットワークフォーラム 大阪大会 2日目

フォーラム2日目前半は、大阪市立信太山青少年野外活動センター(以下活動センターと記す)の「成り立ちとバリアフリー化に向けた取り組み」について、活動センターの山田所長より講演がありました。我々キャンピズは長年に亘って活動センターを利用し、共催で行っている事業も複数ありますが、この密な関係を築いたきっかけが、同センターのバリアフリー化計画でした。障がい者や介護者の意見を反映させられないかという意見があがり、キャンピズの前身である「障がい者支援ボランティア・セミナー」がキャンピズSV・桃山学院大学名誉教授の石田易司教授を中心として開かれ、同セミナーの意見を反映しバリアフリー化が進められました。

キャンプでは少し不便な場所で、非日常を体験することはとても大切なファクターですが、ハンディを持った人にとって、そのファクターを大切にしながら取り組めるキャンプ場はそう多くありません。“バリアアリー過ぎる施設”か“バリアフリー過ぎる施設”かである場合がほとんどですが、活動センターはそのバランスがとてもよく取られており、私はこれまで多くのキャンプ場を利用してきましたが、公設の施設において同センター以上に利用しやすい施設に未だ巡り合っていません。



このような素晴らしい施設を作るにあたって、我々キャンピズが関わってきたという事実を改めて確認し、誇り高く思うとともに、今後も様々な情報提供や意見交換を行い、誰にとっても使いやすいキャンプ場の提案を行っていくことも我々の使命であると感じた講演となりました。



2日目後半は、3部会に分かれたランチオンミーティングが開催され、私は「SNCNの未来を語り合う」に参加いたしました。この部会ではスペシャルニーズキャンプがこれから目指していくことは何か、どの様な視点を持って取り組んでいくべきかをディスカッションしました。私も社会人としてはまだまだ未熟者ではありますが、私よりももっとも若い世代の人たちが多数参加されていました。皆さんとても熱意を持って活動に取り組んでおり、とても白熱したディスカッションが繰り広げられました。

障がいや認知症など、SNCNにおいてスペシャルニーズとされる人たちについて考える際、“個性として捉える”と言うことや、“違いを特別視するのではなく、ありのままを受け入れていくことが大切”という考え方がありますが、現在の日本社会において一般的に十分理解、周知されているわけではなく、根強い偏見や差別が未だに残っています。このことを考えると、我々が“スペシャルニーズ”とカテゴライズすることは違うのではないかという議論が上がりました。キャンピズのミッションである「Camping for All」、キャンプは全ての人のために、誰もが対等な立場で共感・共有できる場所を提供できるものがキャンプであるという観点からも、カテゴライズすることはベストな選択ではないと感じます。ただ、何かを提供したり、何かについて検討するにあたっては、どうしてもカテゴライズして、そこに焦点を当てるのが大切になってくるのも事実です。

様々な意見が飛び交いましたが、私が最も共感できたお話は、そもそもスペシャルニーズとは、全ての人にあるもので、そのスペシャルニーズを包括していくことが我々の目指すべきところだという言うことでした。惜しまれながら解散に至ったS MAPのヒットソング「世界に一つだけの花」の歌詞にもあるように、人は皆、「もともと特別な Only one」であるということ。最初から特別なものだから、バリアを外していこうという考え方ではなく“ユニバーサル(普遍性)”な考え方に発展していくことが我々の目指すべき方向性ではないかと感じました。

キャンピズに関わりは17年。改めて、キャンピズが目指すべきところを考える良い機会となった SNCN フォーラムに感謝の意を述べて終わりとしてさせていただきます。

「SNCNフォーラム!!ありがとう!!」

報告者 西川正人\*社長



# キャンピズ 20 th



## 記念キャンプ×どきどきキャンプ

10月13日キャンピズ20周年記念キャンプがスタートです!!  
設立当初からかかわってくださっていた方から今回初めてキャンプに参加する方までたくさんの方にご参加いただきました!

キャンプ初日は☆the キャンプ☆野外炊飯でカレーをつくり、暗くなればみんなで火を囲み楽しくキャンプファイヤーをしました! 最後にはギターとカホンを持ったスタッフが登場し大合唱会になりました! 夜の集いではお菓子や飲み物を食べながらキャンプについて語り合いました。

キャンプ初参加の方も久しぶりの方も薪で炊くごはんにわくわくし、キャンプファイヤーで大きく燃える炎に目をキラキラと輝かせ参加者みんなで一体感のある初日になったのではないのでしょうか。。



2日目

1日目

スーパーバイ  
ザー登場!!

2日目はキャンピズ20年の軌跡を石田さんの話と共にスライドを交えみんなで観賞しました。お昼はわいわいBBQ! 網で焼くお肉はどうしてこんなに輝いて見えるのでしょうか? お肉が焼けると匂いにつられてお箸が止まりません!! たくさんあった食材もペロッとたいらげてしまいました! ✨

20年という節目に多くの方に参加していただき、たくさんいいお話が聞けました。スタッフ一同より一層よいものを作っていきたいと思っております! これからもよろしくお祈りします!!



# キャンプだより

記録的災害レベルの猛暑はどこへやらと思うほど穏やかな天気恵まれ、キャンプ20周年記念キャンプは和やかな雰囲気でも始まりました。今回のキャンプは、ときどきキャンプの参加者やこの20年間キャンプの活動に携わってくれた方も集まり、懐かしい昔話に花が咲きました。

思い起こせば、私が初めてキャンプのディレクターとして携わったのは、吹田で行われたデイキャンプだったように思います。名付けて、「ひょっこりによっきり たけのこキャンプ」でした。当時勤めていた専門学校の学生や非常勤講師として携わっていた専門学校の学生、それにももちろん今も継続して関わってくれている桃山学院大学の学生などがスタッフとして活躍してくれました。そして、この当時は、社会人ボランティアの方にもずいぶんご協力いただきました。振り返ると、本当にたくさんの方に支えられて今日があるのだと感慨深い思いです。

事務局も、石田易司スーパーバイザーが勤務されていた桃山学院大学の石田研究室から始まり、福島区吉野にあった ONP プラザのインキュベーションスペースに移りました。ところが、大阪ボランティア協会が指定管理者として運営を行っていた ONP プラザは2013年3月をもって閉鎖となり、大阪ボランティア協会が谷町2丁目に新事務所を開設するのに合わせて、ボランティアコーディネーションデスクスペースを借り受けることになり、現在に至ります。

2002年9月には特定非営利活動法人の認証を受け、キャンプ事業はもちろん、2017年度から障害者就労継続支援B型事業所「ウイズ芦屋」をオープンさせました。さらに、大阪市平野区の「平野みんな食堂ネットワーク拠点事業」をプロポーザルにより受託し、活動内容も徐々に範囲を広げております。これからも、人とのつながりを大切にしながら次の5年、10年に向けて歩んでまいります。よろしくお祈りいたします。

代表理事 水流寛二



20周年記念キャンプにご参加下さった皆様、ご寄付頂いた皆様、様々な形でご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。また残念ながらご参加叶わなかった皆様も、これまでキャンプの活動にご支援くださり誠にありがとうございました。

今回の20周年記念キャンプは始動が遅く、告知が遅れてしまったことや、広報の方法も不十分だったこともあり、少し規模の小さいものとなってしまいました。参加の叶わなかった皆様にはご迷惑をお掛けしましたが、その分密な話ができたと感じています。

沢山の写真や歴代のキャンプTシャツの展示を眺めながら、自身が関わってきた17年間を振り返るととてもいい機会となりました。本当に沢山の思い出があり、皆様と過ごしてきたこの経験は私の人生ともいえるもので、こんなにも素晴らしい活動に理事として事務局長として、キャンプの中心として活動できていることは本当に幸せなことだと感じ、これもひとえに皆様のお力添えのおかげと感謝しております。

キャンプはこれから30周年、40周年とまだまだ発展、発信を続けてまいります。キャンプ活動を中心にして、ユニバーサルに支援ができる団体を目指していきたいというのが私の思いです。私一人の力では成しえない壮大な考えですが、夢に向かってより一層の努力をしていく所存ですので、今後ともなにとぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務局長 西川正人\*社長



## キャンプ事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-2-20 2F HP <http://campwith.jp/>  
市民活動スクエア CANVAS 谷町内 C-01 開局日 月曜～金曜(10:00～17:00)  
TEL/FAX 06-7657-5001 発行責任者:水流寛二  
E-MAIL [ncw1998@campwith.jp](mailto:ncw1998@campwith.jp)

# ウィズ芦屋・通信



お茶を飲みながら、気軽に地域の団体と交流できるイベント「ふれあいカフェ」が行われました

## ふれあいカフェ



ニュース封入作業

ウィズ芦屋がオープンして1年6か月が過ぎました。

登録メンバーさんも15名に増え、にぎやかな雰囲気の中で作業がスタートしています。この半年間でいろいろ出来事があってほんの一部ですがご紹介させていただきます。



保健福祉フェア・パネル展示

キャンピズのニュースの封入やマフラータオルの封入をウィズ芦屋で行っています。マフラータオルはコンサートみたい・・・。

地域に向けて、あしやNPOセンターで毎月第二土曜日に地域の方が集う「ふれあいカフェ」でウィズ芦屋の取り組みを紹介させていただきました。そのときの映像がJ-COMで少しだけ放映されました。



マフラー封入作業

また、NPOセンターで他団体の方と一緒にニュースレターの封入をメンバーさんとお手伝いに行きました。

地域の保健福祉フェアではパネル展示による事業所紹介もさせていただきました。

少しずつですが地域に向けて発信しています。



NPOセンターでの封入お手伝い

ウィズ芦屋 管理者 阪田昌三

## CAMPING AWARD 2018

公益社団法人 日本キャンプ協会は協会設立 35 周年の 2001 年より、全国のキャンプ協会で著しく貢献した人や団体の功績を永く顕彰することを目的に CAMPING AWARD 表彰を行っています。この度、大阪府キャンプ協会の推薦により特定非営利活動法人キャンピズが CAMPING AWARD 2018 において表彰していただきましたので報告いたします。

授賞式は 2018 年 10 月 27 日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて執り行われ、13 名と 1 団体が受賞いたしました。キャンピズからは、前キャンピズ事務局員で現日本キャンプ協会の前田将太さんが表彰式に出席し、記念の盾をいただきました。

このように、キャンプに携わる者として、名誉ある賞をいただき、身の引き締まる思いです。これも、ひとえにこれまでキャンプに参加していただいたキャンパーはもちろん、信頼してお子さんを送り出してくださったご家族のみなさん、キャンプを支えてくれたスタッフのみなさん、そして、キャンプを受け入れてくださった施設のみなさんとのかわりによるものと感謝いたしております。今後も、時代の要請にこたえるべく、先駆的な活動を展開していく決意を新たにしております。これからもよろしくお願いいたします。 代表理事 水流寛二



# 平野みんな食堂

## ネットワーク

2018 秋

### 平野区みんな食堂まつり開催

十一月三日(土・祝)大  
阪市平野区民ホールにて  
昨年に引き続き、開催しま  
した。

平野区の稲嶺区長のあ  
いさつで、開会したイベン  
トは、常磐会学園大学アコ  
ギサークルの三人が、やさ  
しく包みこむ歌声で会場  
を和ませてくれました。



続いて登場してください  
ましたのは、落語家の桂  
福丸さん。トークと落語  
で、会場は大盛り上がり  
となりました。落語の後  
は、太鼓サークル童。エイ  
サーと太鼓の迫力に圧  
倒されました。その他、バ  
ルーンアートに似顔絵、  
手作りおもちゃの各ブー  
スにも子どもたちの明る  
い声が響き渡っていました  
。中でも、学校教育と地  
域協力をテーマに話し合  
われた車座井戸端カフェ  
は五十名ほどの方にご参  
加いただき、貴重な情報  
交換の場となりました。  
ファイナレは、ゴスペル・  
メリーの皆さん。とても  
盛り沢山の一日でした。

### 第3回

### 子どもの居場所・ ボランティア養成講座

九月二日(日)平野区子ど  
も・子育てプラザにて開催し  
ました。

「こどもと一緒に楽しむ  
工作から学ぶ」をテーマに、  
星形リース・銀杏を使ったミ  
ノムシづくり・木の葉を使っ  
た人形づくり・木の枝を使っ  
た鉛筆キーホルダーづくり  
を行いました。

途中、こどもたちからノコ  
ギリ使ってみたい!ナイフ  
で削ってみたい!と想定以  
上の声があがるほど、盛り上  
がりました。



「みんな食堂・子どもの居場所」に訪  
問し、取り組みの様子を見学したり情  
報交換をしながら、楽しく交流をする  
井戸端会議。月一回開催しています。

9月

### みんなの井戸端会議

「加美老人憩  
の家」にて開催。  
ケーキとお茶を  
いただきながら、  
学校と地域の関  
係作りについて、  
活発な意見交換  
となりました。

「住吉隣保事業推進  
センター」にて、寿こど  
も料理食堂を見学させ  
ていただきました。スタ  
ッフが、飾らない言葉で  
指示している姿に、こど  
も達との素晴らしい関  
係がうかがえました。

10月

平野区役所から委託を受けて活動を始めた  
「平野みんな食堂ネットワーク」です。「こど  
もの居場所」の開設・運営の相談や、運営者  
間のネットワークづくり、イベントの開催や  
情報提供を行っています。

平野みんな食堂  
ネットワーク

みんな食堂ネットワーク拠点事業  
事業受託者  
特定非営利活動法人 キャンピス

平野区平野市町 3-2-12

## 後期グループキャンプ参加者募集と継続参加についてのお知らせ

12月よりグループキャンプ後期がスタート致します。グループキャンプチャレンジ、グループキャンプゆったりともに定員に空きがございますので、新規参加者を募集いたします。お申し込みは事務局まで FAX またはメールにてご連絡下さい。先着順にて受付致します。

また前期グループキャンプにご参加下さった皆様は、後期グループキャンプの継続手続きを行って下さい。手続き方法は下記を参照下さい。

### 【後期グループキャンプ日程】

グループキャンプチャレンジ(担当:信達和典) …12/15-16 1/19-20 2/16-17 3/9-10

グループキャンプゆったり(担当:西川正人) …12/1-2 1/19-20 2/2-3 3/2-3

### 継続手続き詳細

①同封の振込用紙にて参加費を納入して下さい。納入確認をもって継続手続き完了となります。

#### グループキャンプチャレンジ

…お振込み金額は参加回数×18000 円です。(全参加 18000 円×4=72000)

#### グループキャンプゆったり

…お振込み金額は参加回数×18000 円です。(全参加 18000 円×4=72000)

※グループキャンプゆったりは3月に旅行を予定しております。追加で料金が必要な場合は追って連絡させていただきます。

※振込用紙には【住所・氏名・電話番号・会員番号・参加日・金額】をご記入下さい。

※手渡し、書留等での送付によるお支払いは一切受け付けておりませんのでご了承くださいませ。

※申し訳ございませんが手数料のご負担をお願いします。

※お控えの保管を徹底して下さいますようお願いいたします。

②納入締め切りは 11月21日(水)とさせていただきます。

※期限を過ぎますとご参加頂けない場合もございますので、お早目の納入をお願いします。

③原則として後期の継続をお願いします。

参加費の納入は前期・後期に分かれておりますが、グループキャンプは年間を通じてのプログラムです。止むを得ない事情を除きましては後期のキャンプへも継続してご参加下さい。

G.C. ゆったり  
野外レクリエーション



G.C. チャレンジ  
野外炊飯

